nikko am
Nikko Asset Management

日興グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート 2005-10
＜愛称 Jプラス 2005-10＞

単位型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

交付運用報告書

第21期（決算日2016年１月22日）

作成対象期間（2015年７月23日～2016年１月22日）

第21期末（2016年１月22日）	
基準価額	9,405円
純資産総額	564百万円
第21期	
騰落率	△ 0.2%
分配金（税込み）合計	0円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご留意ください。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート 2005-10」は、2016年１月22日に第21期の決算を行ないました。

当ファンドは、国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利に実質的に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社
東京都港区赤坂九丁目７番１号
http://www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

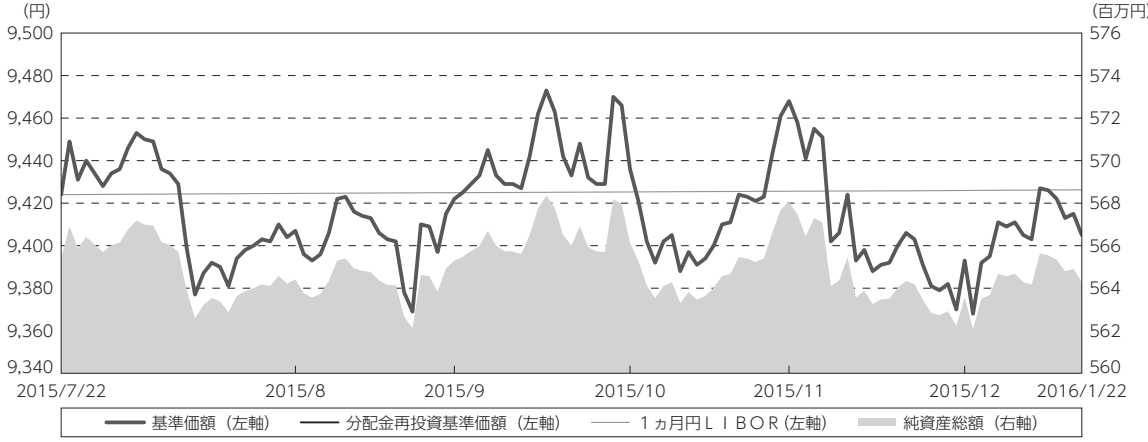
コールセンター　電話番号：0120－25－1404
午前９時～午後５時　土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2015年7月23日～2016年1月22日)



期　首：9,424円
期　末：9,405円（既払分配金(税込み)：０円）
騰落率：△ 0.2%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご留意ください。
(注) 分配金再投資基準価額および１ヵ月円ＬＩＢＯＲは、期首（2015年７月22日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
(注) 上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
(注) １ヵ月円ＬＩＢＯＲは当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の推移

期首9,424円の基準価額は、期末に9,405円となり、騰落率は△0.2%となりました。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利に実質的に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なっております。期中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

＜値上がり要因＞

・カナダドルをショートポジションとしたこと（2015年８月中旬～８月下旬）。
・ドイツ国債をロングポジションとしたこと（2015年９月～11月）。
・スウェーデンクローナをショートポジションとしたこと（2015年８月下旬～10月上旬）。

＜値下がり要因＞

・アメリカドルをロングポジションとしたこと（2015年12月～期末）。
・イギリスポンドをロングポジションとしたこと（2015年12月～期末）。
・イギリス国債をロングポジションとしたこと（2015年11月～12月）。

１口当たりの費用明細

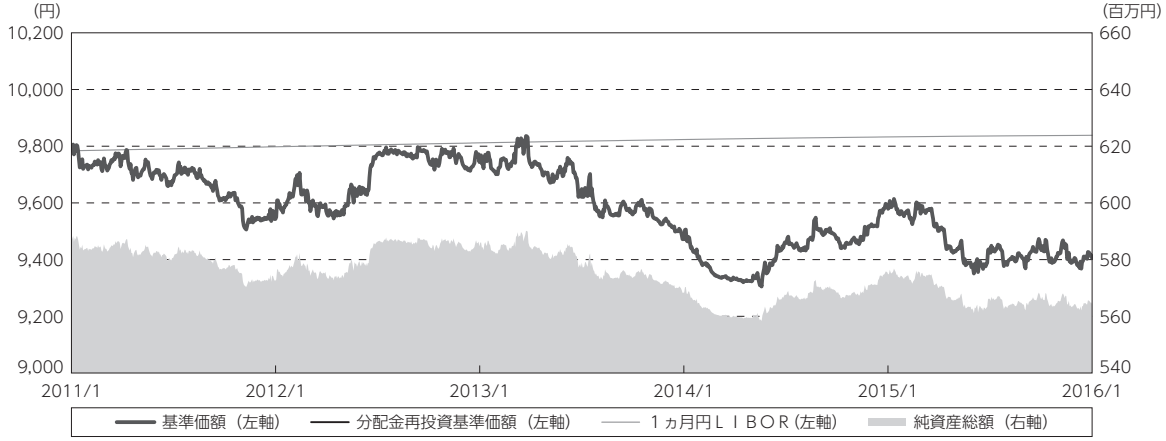
（2015年7月23日～2016年1月22日）

項目	当期 金額	当期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	52	0.553	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(18)	(0.192)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(32)	(0.336)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	(2)	(0.025)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	3	0.031	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(3)	(0.031)	
(c) その他費用	1	0.005	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.000)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.003)	その他は、外貨に係る税金
合計	56	0.589	
期中の平均基準価額は、9,427円です。			

（注）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、簡便法により算出した結果です。
（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
（注）各比率は１口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

最近５年間の基準価額等の推移

（2011年1月24日～2016年1月22日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご留意ください。
（注）分配金再投資基準価額および１ヵ月円ＬＩＢＯＲは、2011年１月24日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年１月24日 決算日	2012年１月23日 決算日	2013年１月22日 決算日	2014年１月22日 決算日	2015年１月22日 決算日	2016年１月22日 決算日
基準価額　(円)	9,784	9,543	9,765	9,473	9,579	9,405
期間分配金合計(税込み)　(円)	－	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率　(%)	－	△　2.5	2.3	△　3.0	1.1	△　1.8
１ヵ月円ＬＩＢＯＲ騰落率　(%)	－	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
純資産総額　(百万円)	587	572	585	568	574	564

（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。
（注）１ヵ月円ＬＩＢＯＲは当ファンドのベンチマークです。

投資環境

（2015年7月23日～2016年1月22日）

（債券市況）

期中における投資先各国の国債利回りは、期首と比べて総じて低下（債券価格は上昇）しました。

期首から2015年10月にかけては、米国連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）による利上げ観測などを背景に各国の国債利回りが上昇（債券価格は下落）する局面があったものの、世界経済の減速懸念を背景とした投資家による国債など安全資産への逃避需要や、原油などの資源価格の低迷を背景としたインフレ観測の後退、欧州中央銀行（ＥＣＢ）による追加金融緩和策への期待などを背景に、投資先各国の国債利回りは総じて低下しました。11月から12月にかけては、原油価格の下落や世界経済の減速懸念が国債利回りの低下要因となったものの、ＦＲＢによる利上げ観測や、12月の米国連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）における利上げの決定、ＥＣＢによる追加金融緩和策の内容が投資家の失望を誘ったことなどから、投資先各国の国債利回りは概して上昇しました。期末にかけては、原油安の進行や中国における人民元安・株安の進行を背景とする世界経済の先行き不透明感などから、投資先各国の国債利回りは総じて低下しました。

（為替市況）

当期における投資先各国の通貨（対円）は、下記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移

円／カナダドルの推移

円／オーストラリアドルの推移

円／ユーロの推移

円／イギリスポンドの推移

円／スイスフランの推移

円／スウェーデンクローナの推移

当ファンドのポートフォリオ

（2015年7月23日～2016年1月22日）

（当ファンド）

当ファンドは、「グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

（グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド）

原則として「日興ＧＡＡモデル」での算出結果に基づき、以下の通り、ポジションを調整しました。

トータルリスクは、市場の安定的な推移により期待リターンモデルの予測力が高まると判断したことなどから、主に2015年10月から12月にかけて、ポートフォリオのトータルリスクを高めた運用を行ないました。

債券のポジションは、期首から2015年11月にかけては、金利ファクターで魅力の高いドイツ国債などをロングとする一方で、金利ファクターで魅力が低いイギリス国債などをショートとしました。その後は、オーストラリア国債やイギリス国債をロングとしました。

債券のネットエクスポージャー（ロングポジションとショートポジションの差）は、期を通じてロングポジションとしました。

通貨のポジションは、期を通じて、金利ファクターで魅力の高いアメリカドルなどを概ねロングとする一方、ショートポジションとする通貨は、金利ファクターやコモディティファクターの魅力度を勘案しつつ入れ替えました。

通貨のネットエクスポージャーは、期を通じて概ねロングポジションとしました。

●債券および通貨のエクスポージャー

2015年７月22日現在

通貨	債券	通貨
アメリカ	買い建て	買い建て
カナダ	－	売り建て
日本	買い建て	－
オーストラリア	買い建て	売り建て
ドイツ	売り建て	－
ユーロ	－	売り建て
イギリス	売り建て	買い建て
スイス	－	売り建て
スウェーデン	－	売り建て
ネット・エクスポージャー	買い建て	－

（注）表中の「－」は非保有。

2016年１月22日現在

通貨	債券	通貨
アメリカ	売り建て	買い建て
カナダ	－	売り建て
日本	売り建て	売り建て
オーストラリア	買い建て	買い建て
ドイツ	－	－
ユーロ	買い建て	売り建て
イギリス	－	買い建て
スイス	－	買い建て
スウェーデン	－	買い建て
ネット・エクスポージャー	買い建て	－

（注）表中の「－」は非保有。

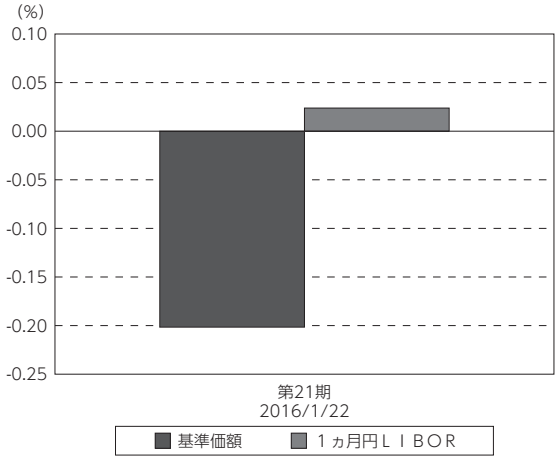
当ファンドのベンチマークとの差異

（2015年7月23日～2016年1月22日）

期中における基準価額は、0.2%の値下がりとなり、ベンチマークである「１ヵ月円ＬＩＢＯＲ」の上昇率0.0%を概ね0.2%下回ることとなりました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。
（注）１ヵ月円ＬＩＢＯＲは当ファンドのベンチマークです。

＜プラス要因＞

・カナダドルをショートポジションとしたこと（2015年８月中旬～８月下旬）。
・ドイツ国債をロングポジションとしたこと（2015年９月～11月）。
・スウェーデンクローナをショートポジションとしたこと（2015年８月下旬～10月上旬）。

＜マイナス要因＞

・アメリカドルをロングポジションとしたこと（2015年12月～期末）。
・イギリスポンドをロングポジションとしたこと（2015年12月～期末）。
・イギリス国債をロングポジションとしたこと（2015年11月～12月）。

分配金

（2015年7月23日～2016年1月22日）

基準価額水準、市況動向などを勘案し、当期の分配を見送りといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

（グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド）

引き続き、原則として「日興ＧＡＡモデル」の算出結果を基にポートフォリオを構築しますが、必要に応じて定性判断を採り入れることにより、計量モデルでは捕捉できない市場変動などに対応し、より安定的なパフォーマンスをめざします。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

お知らせ

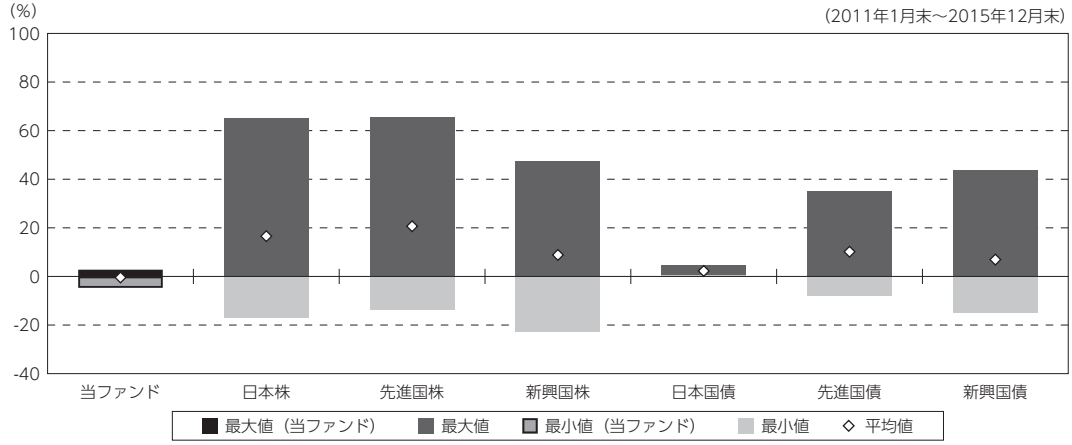
2015年７月23日から2016年１月22日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	単位型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	2005年10月31日から2020年10月22日までです。 （クローズド期間は、原則全期間です。）	
運用方針	主として「グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざします。	
主要投資対象	日興グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート2005-10	「グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド	国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利を主要投資対象とします。
運用方法	「グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券への投資を通じて、世界各国の債券および通貨への投資に加え、債券先物取引および外国為替予約取引等も行ないます。世界主要国の債券および通貨を主要投資対象としたロング・ショート戦略で運用を行ないます。自社開発の計量モデル（日興ＧＡＡモデル）による分析をもとに、ポートフォリオの最適化を図ります。計量モデルによる運用を基本としますが、必要に応じて定性判断を採り入れることにより、モデルでは補捉できない市場変動などに対応し、パフォーマンスの安定化を図ります。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：%）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	2.8	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	△ 4.7	△ 17.0	△ 13.6	△ 22.8	0.4	△ 7.9	△ 15.0
平均値	△ 0.4	16.6	20.7	8.8	2.3	10.2	6.9

（注）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注）2011年１月から2015年12月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
（注）当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日 本 株：東証株価指数（TOPIX、配当込）
先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）
新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）
日本国債：NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス国債
先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

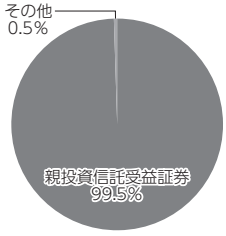
（2016年1月22日現在）

○組入上位ファンド

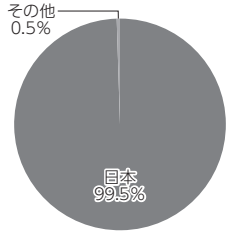
銘　　柄　　名	第21期末
	%
グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド	99.5
組入銘柄数	1銘柄

（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

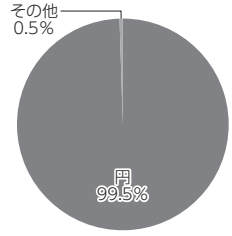
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

項　　目	第21期末
	2016年１月22日
純資産総額	564,273,757円
受益権総口数	60,000口
１口当たり基準価額	9,405円

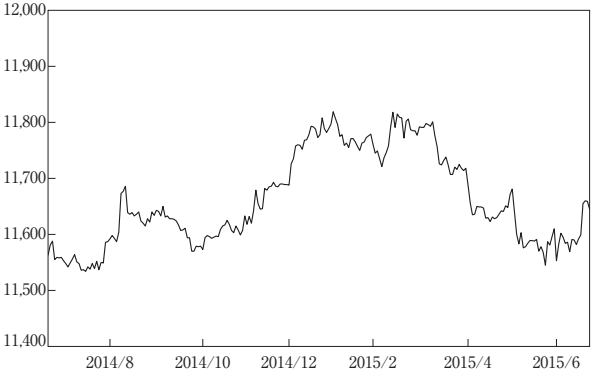
（注）期中における解約元本額は０円です。

組入上位ファンドの概要

グローバル・ボンド＆カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド

【基準価額の推移】

（2014年７月23日～2015年７月22日）



【１万口当たりの費用明細】

（2014年７月23日～2015年７月22日）

項　　目	当　期	
	金　額	比　率
	円	%
(a) 売買委託手数料	4	0.034
(先物・オプション)	(4)	(0.034)
(b) その他費用	0	0.001
(保管費用)	(0)	(0.000)
(その他)	(0)	(0.001)
合　計	4	0.035
期中の平均基準価額は、11,657円です。		

（注）上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

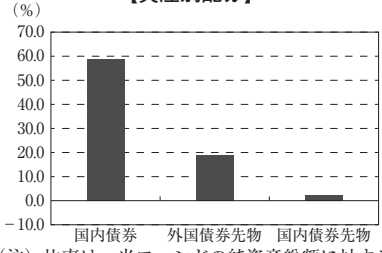
【組入上位10銘柄】

（2015年７月22日現在）

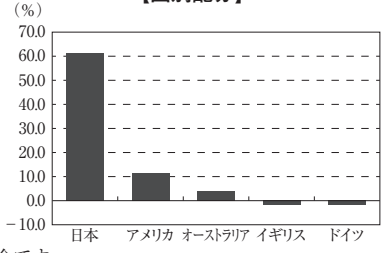
	銘　柄　名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	第536回国庫短期証券	国債証券	円	日本	25.9
2	第535回国庫短期証券	国債証券	円	日本	17.3
3	第540回国庫短期証券	国債証券	円	日本	15.6
4	TNOTE10Y	債券先物（買建）	アメリカドル	アメリカ	11.6
5	AUSTR10Y	債券先物（買建）	オーストラリアドル	オーストラリア	3.8
6	長期国債先物	債券先物（買建）	円	日本	2.5
7	GILT10Y	債券先物（売建）	イギリスポンド	イギリス	1.9
8	BUND10Y	債券先物（売建）	ユーロ	ドイツ	1.8
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数		8銘柄			

（注）比率は、純資産総額に対する割合です。
（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
（注）国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

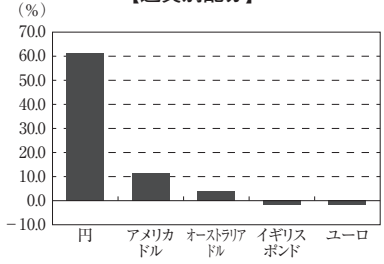
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



（注）比率は、当ファンドの純資産総額に対する割合です。
（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○東証株価指数（TOPIX、配当込）
当指数は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。

○MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）
当指数は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）
当指数は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス国債
当指数は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
当指数は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）
当指数は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。